今年も頑張ります！湯郷ベル　応援よろしくお願い致します

2014年、今年もシーズンをむかえ、なでしこリーグ戦が始まりました。第一節は3月30日（日）岡山県 美作ラグビー・サッカー場、つまりホームグラウンドでの開幕です。対戦相手は、FC吉備国際大学Charmとの試合です。キックオフわずか2分後に、エースの宮間選手がボレーシュートを決め、幸先のよいゲーム展開でした。その後1点を取られ追いつかれたのですが、後半68分に松岡選手がゴールを決め優位に試合を進めて2－1で勝利をおさめることができました！東京では桜が満開したとのニュースもありましたが、湯郷ベルの拠点である岡山県美作市では、午前中は雨模様。しかしみなさまの応援の熱意が伝わったのか、午後からは雨もやみ、なんと2600名ものファンの方々の大歓声に見守られて、開幕戦を勝利で飾ることができました。さて、岡山湯郷Beeーーeですが、2001年岡山県美作町と民間の協力を得て創部致しましたが、この度さらなる発展を目指すために、NPO法人から、一般社団法人岡山湯郷Beeーーeとして法人格を取得し、新たな一歩を踏み出すこととなりました。NPO法人は非営利団体ですが、一般社団法人は非営利でなってもよく、ファンのみなさまからの入場料やグッズなどの販売などで利益を上げて税金を支払うことができるのです。つまり、きちっとした経営母体として存続し選手の皆さんの支えとなるものです。今年は幸先良く勝利スタートです。法人にもなった岡山湯郷Beeーーeを大日化成では今年も応援して参りますので、みなさまもぜひ応援してください。

大日新聞に関するお問い合わせ・ご意見などはホームページ及び
大日化成株式会社 06-6909-6755 までお願いいたします。

スタッフ紹介

日頃は営業活動やお電話で応対させていただいておりますスタッフの日常をお伝えいたします。

南の方から桜が開花したとのニュースが聞こえてくる季節となりました。私にとって春は辛い時期なのです。悩ませられるのは2数年来花粉症の症状がひどくなってきたのです。鼻づまり、目のかゆみ、鼻水、くしゃみ、大好きなお酒も呑めなくなってしまったのです。実は、昨年症状が出てから、「花粉症の症状を良くする病院があるとの教えを信じて注射を扱ってもらいました。程なく効果が現れ、今年は楽に花粉症の対策ができるこころの余裕が出てきました。

申し遅れましたが大阪営業部の野原定治と申します。3日間の休暇を利用して、出身地の鹿児島県に帰省してきました。この春に入社したばかりの新人です。鹿児島県は、九州の南端に位置する県で、人口は約167万人。県の面積は、九州の約1/4。県内には、100kmもはなれた離島が多くあります。（因みに私は仏教徒）

徒歩で行ける範囲の所に、五島列島があります。五島列島は、長崎港から西に100kmもはなれた離島が多くあります。五島列島は、長崎県に属しています。

合わせて140時間あまりのフェリーで4時間あまりの大小あわせて140の島からなる列島です。

カトリック教会があり、ユネスコ世界遺産の暫定リストに入っています。

昨年ストーリー長崎の教会群とキリスト教関連遺産が世界遺産の登録を目指して降ってきました。今年以降は、残念ながら今年以降は、見送りとなりました。

本日は、全国生産量の30%を占める日本一の椿油が使用されている椿油のシャンプーとリンスの資生堂のシャンプーとリンスに五島の椿油が使用されていることはご存知ない方が多いのではないかと思います。

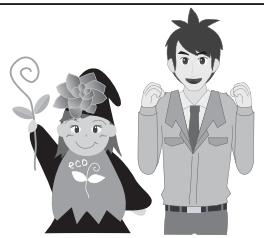
業務用の方は一昨年より発売されている「ビッグサンUVシート」も担当しています。「ビッグサンUVシート」はノングスチレン型のFRPシートで紫外線照射により約20分で硬化するとの言うユニークな特徴をもっている製品です。

採用されて順調に実績を伸ばしてきました。

現在はUR都市機構の指定浴室防水に面積で使用する特殊徴線を活用し、様々な硬化場を秘場を皆様方法をご連絡をお願いしたいと思います。

大阪営業部
野原 定治

DAINICHI CHEMICAL CO.,LTD.
●本社
〒571-0030　大阪府門真市末広町 8-13
TEL：06-6909-6755(代)　/　FAX：06-6909-6702
●東京支店
〒105-0013　東京都港区浜松町1-2-5
TEL：03-3436-3801(代)　/　FAX：03-3436-3803
URL：http://www.dainichikasei.co.jp



Vol.24

映画で学ぶ 環境問題

ツイスター
（Twister）

監督：ヤン・デ・ボン
脚本：マイケル・クライトン
　　アン・マリー・マーティン
製作総指揮 スティーヴン・スピルバーグ
出演者：ヘレン・ハント
　　ビル・パクストン
配給：ワーナー・ブラザーズ
　　ユニバーサル映画
公開：1996 年

今回取り上げるのは1996年公開、竜巻と研究者の闘いを描いた米国映画「ツイスター」。

当時、「スピード」というパニック・アクションで大ヒットを飛ばしたヤン・デ・ボン監督と「ジュラシックパーク」で不動の地位を得た脚本家マイケル・クライトンが、スティーブン・スピルバーグ製作総指揮の元で辣腕をふるう、何ともぜいたくな作品です。

舞台はアメリカ・オクラホマ州。竜巻の多発地帯で活動する「竜巻研究者（ツイスター・ハンター）」夫婦とその仲間の波乱万丈な活躍ぶりを描いています。

もちろんハリウッド映画の王道であるスタイルがここでも明確に出ており、たとえば

①離婚寸前の夫婦が、危機を乗り越える中で愛と絆を取り戻す。
②彼らを信じて支える仲間の破天荒ぶり。
③技術を盗んで一儲けたくらもうとする敵役（実は元仲間）と彼らの凋落。
④ヒロインの過去のトラウマからの脱却。
⑤ハラハラ・ドキドキするパニックシーン
⑥なんといってもリアル感あふれるコンピュータグラフィックスとバツグンの音響効果「DTS」。

などなど、シンプルなストーリーの中にも、盛りだくさんで飽きさせません。

とはいえ、90年代後半の作品ですから、現代のようなテクノロジーはなく「研究装置がリモコン操作できない」「自分達の手で竜巻の前に装置を設置しなければならない」「何度も同じ失敗ばかり繰り返す」など、アナログ感覚な演出について、イライラしてしまうのも事実。ヒロインのヘレン・ハントも、ハリウッドきっての大根役者とあって、今ひとつ感情移入しづらいところもあります。

そんな作品を今回取り上げたのは、日本でも最近、竜巻が多発しているからです。この映画が公開された当時は「竜巻なんて、アメリカだけの話」といった感が強かったのですが、ダウンバーストと呼ばれるものも含めると、なんと昨年（2013年）1年間だけでも約110件も発生しています。（気象庁調べ）

その内、9月2日に埼玉県越谷市で発生したものは「F2」と呼ばれる大きなもので、64名が負傷し1156棟もの住家が被害を受けたようですから、日本でも決して他人事ではなくなりました。

日本での多発要因には様々な学説がありますが、いわゆる環境汚染による地球温暖化（熱帯低気圧）による影響説以外にも、「太陽の活動による地磁気異常」や「東北大震災による地殻変動からの影響」など、素人目には信じがたいものも含めて、多彩な説があります。

どれが原因にせよ、気象庁の統計で見る限り、多発するのは5月以降、特に夏場の8月9月には集中しているようですので、これからの時期、防災目的に「竜巻・突風」も加えておく方が良いようです。

この映画にもありますが「竜巻の警報は出しづらい」ようですから、アメリカ並みに「防災地下室」を備えるまではできなくても、各家庭や事業所で、突風や停電に備えた意識は高めて頂きたいもの。

そんなことも鑑みながら、一度はご覧頂きたい作品です。

ちなみに話のタネとして、ヤン・デ・ボン監督のお嬢さんが農場の子供としてチラっと出演しているのも、みどころです。